授業実践レポート（社会科）

授業者：立石和仁

２年　単元名　世界から見た日本のすがた

【研究実践のポイント】

◎対話や議論を生む課題設定

　→単元を通して答えを出せる問いを考える

◎見方・考え方の獲得（資質能力の獲得）

　→できるようになったこと（変容の自覚）

【仮説】

　対話や議論を生む課題設定やその課題解決に向けた毎時間のめあてを示すとともに、資料の選択や読み取り、答え方や発表の方法等を学習し、めあてに基づいたまとめや振り返りを行う授業を工夫していけば、見方・考え方（資質能力）を育むことができるであろう。

【具体的な取組】

・単元でつけたい力を明確にして、単元を貫く問を設定し、問題解決につながるような各時間のめあてを示す。

・生徒が学習課題（単元ゴール）を意識し、自分ごととして考え、対話や議論ができるようなめあてを時間ごとに示す。

・学習活動を充実させるために学習過程として、題把握（動機付けや方向付け）、課題追究（情報収集や考察・構想）、課題解決（まとめ・振り返り）に大きく分けて単元の計画を立てる。

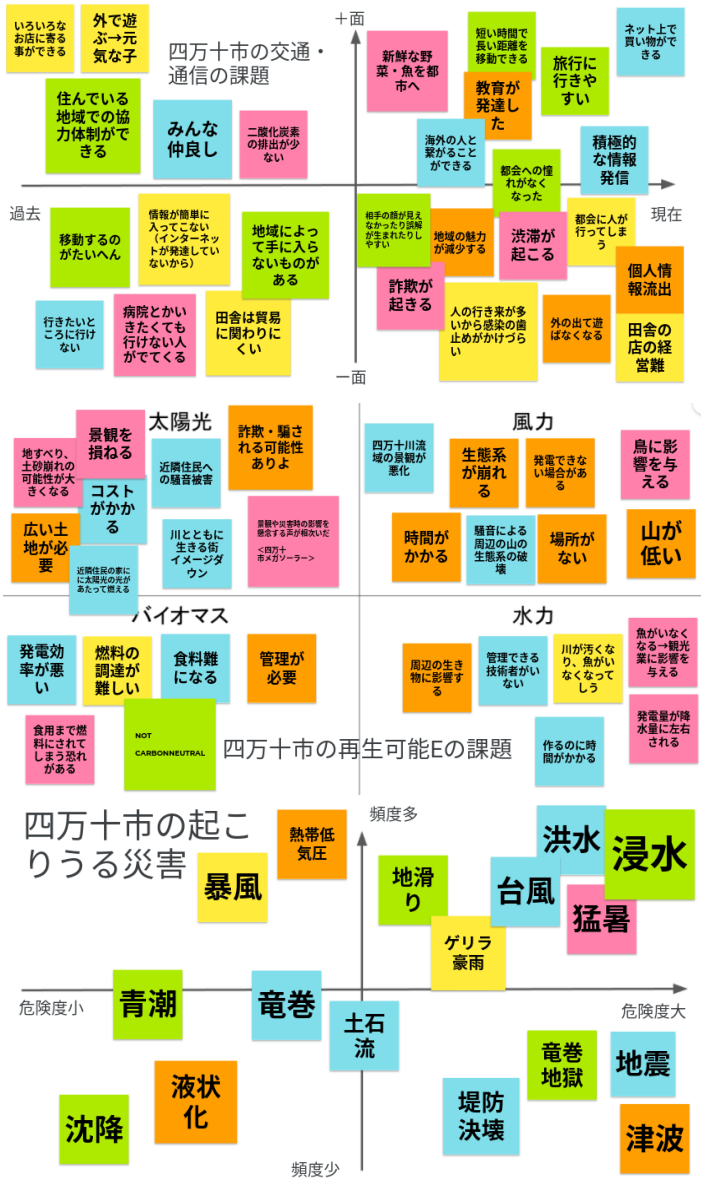
・「視点や方法(考え方)」を用いて課題を追究したり解決したりする力を身に付けさせる。

【授業づくり】

ゴールから課題を設定するために、まずは単元で付けたい力を確認し、その力を付けるための学びの過程で「見方・考え方」をはたらかせることができるような単元を貫く問いを考える。

「四万十市の未来のために、私たちに課せられたミッションとは・・・」と問いを設定することで、生徒自身が共通点や差異に着目しながら身近な課題を見出す。そして、単元を貫く自らの問いを設定し、課題追究していく学習を見通しながら、SDGsの視点と関連付けて考察し見方・考え方をはたらかせる。

また、課題追究の場面では日本国内での様々な課題を四万十市と関連付けて、「四万十市の〇〇の課題から、なぜ今ＳＤＧｓの取組が重要なのか考えよう」とめあてを設定することで、日本の大きな課題を身近な自分事としての課題と捉えることができ、自分なりに考察し表現させる。



フィールドワークの実施

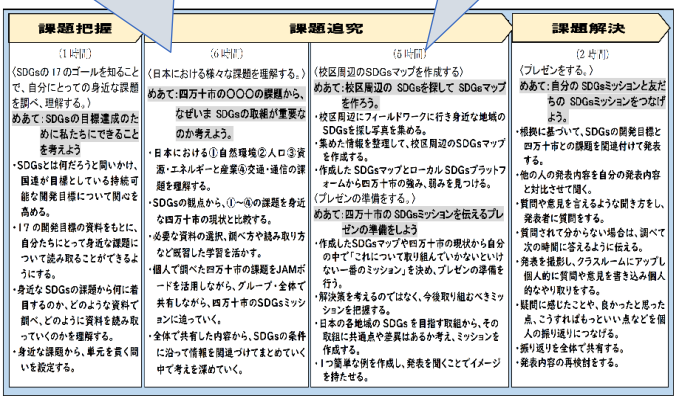
日本全体の課題と四万十市の課題を自分たちなりに考えていく中で「他地域でも起こっている課題はどのようなものか？」「この地域だからこそ起こっている課題に関することは何か？」という生徒から出た疑問を解決するためにフィールドワークを実施した。地域的特色と一般的共通性を把握することで課題解決に向けての足掛かりとした。

ICT の活用

考察に必要な情報の収集や考察したことを表現することに使用したり、個人の考察や表現を全体で共有したりする際に活用する。

Jamboard で個人の思考を全体共

フィールドワークの際の記録で活用



課題把握	課題追究		課題解決
（1時間）	（6時間）	（5時間）	（2時間）
〈SDGsの17のゴールを知ることで、自分にとっての身近な課題を調べ、理解する。〉 めあて：SDGsの目標達成のために私たちにできることを考えよう ・SDGsとは何だろうと問いかけ、国連が目標としている持続可能な開発目標について関心を高める。 ・17の開発目標の資料をもとに、自分たちにとって身近な課題について読み取ることができるようにする。 ・身近なSDGsの課題から何に着目するのか、どのような資料で調べ、どのように資料を読み取っていくのかを理解する。 ・身近な課題から、単元を貫く問いを設定する。	〈日本における様々な課題を理解する。〉 めあて：四万十市の〇〇〇の課題から、なぜいまSDGsの取組が重要なのか考えよう。 ・日本における①自然環境②人口③資源・エネルギーと産業④交通・通信の課題を理解する。 ・SDGsの観点から、①～④の課題を身近な四万十市の現状と比較する。 ・必要な資料の選択、調べ方や読み取り方など既習した学習を活かす。 ・個人で調べた四万十市の課題をJAMボードを活用しながら、グループ・全体で共有しながら、四万十市のSDGsミッションに迫っていく。 ・全体で共有した内容から、SDGsの条件に沿って情報を関連づけてまとめていく中で考えを深めていく。	〈校区周辺のSDGsマップを作成する〉 めあて：校区周辺の SDGsを探して SDGsマップを作ろう。 ・校区周辺にフィールドワークに行き身近な地域のSDGsを探し写真を集める。 ・集めた情報を整理して、校区周辺のSDGsマップを作成する。 ・作成した SDGsマップとローカル SDGsプラットフォームから四万十市の強み、弱みを見つける。 〈プレゼンの準備をする。〉 めあて：四万十市の SDGsミッションを伝えるプレゼンの準備をしよう ・作成したSDGsマップや四万十市の現状から自分の中で「これについて取り組んでいかないといけない一番のミッション」を決め、プレゼンの準備を行う。 ・解決策を考えるのではなく、今後取り組むべきミッションを把握する。 ・日本の各地域の SDGs を目指す取組から、その取組に共通点や差異はあるか考え、ミッションを作成する。 ・1つ簡単な例を作成し、発表を聞くことでイメージを持たせる。	〈プレゼンをする。〉 めあて：自分の SDGsミッションと友だちの SDGsミッションをつなげよう。 ・根拠に基づいて、SDGsの開発目標と四万十市との課題を関連付けて発表する。 ・他の人の発表内容を自分の発表内容と対比させて聞く。 ・質問や意見を言えるような聞き方をし、発表者に質問をする。 ・質問されて分からない場合は、調べて次の時間に答えるように伝える。 ・発表を撮影し、クラスルームにアップし個人的に質問や意見を書き込み個人的なやり取りをする。 ・疑問に感じたことや、良かったと思った点、こうすればもっといい点などを個人の振り返りにつなげる。 ・振り返りを全体で共有する。 ・発表内容の再検討をする。

日本の地域的特色を考察するための情報収集に活用

個人でまとめた考察を表現する際に活用

・現在の四万十市では主に太陽光発電が多く再生可能エネルギーを使っているけど、まだ海外からの資源で発電する方法に頼ってしまっているからもう少し再生可能エネルギーを使う割合を増やすべきだと思う。

・私は⑪の住み続けられるまちづくりが大切だと思った。理由は、若い世代が自分たちの生まれた地域に住み続け、家族になり子どもが増えることで少子高齢化社会を改善できると思うからです。

・日本では再生可能エネルギーの割合が低く、太陽光や風力等にもデメリットや課題があるため、四万十市でも実行は難しいことが分かった。しかし、環境のためにもできる再生可能エネルギーの発電を最大限使っていく必要があると思った。

最後のまとめでは、「自分のＳＤＧｓミッションと友だちのＳＤＧｓミッションをつなげよう」とめあてを設定した。生徒個人が準備したプレゼンを発表しあい、自分の課題解決と他者の課題解決を向き合わせることで、議論を生ませよりよい課題解決に向けての時間となるように仕組んだ。

【成果と課題】

＜成果＞

・ＳＤＧｓの観点を最初に学習することで自ら課題を見つけ、様々な方法を使い課題追究することができた。

・新学習指導要領の考察の仕方を基にして、各地方との課題を関連させてつながりをもたせて考察させることができた。

・様々な課題を他の地域と比較し、関連付けて考察させることにより、空間的な広がりに関心をもたせるなど工夫できた。

・タブレットを活用することで、様々な方法知を身につけることができた。

＜課題＞

●総合学習との違いをはっきりと授業で出すことができなかった。

●発表者との意見交換の場面で批判的な意見が少なく、対立が生まれず議論までには至らなかった。

●プレゼンとのつながりを見つける時間を設定すると議論までつながったのではないか。

●自分事と当事者性の捉え方について、問題の直接的な利害関係者と同じ心情や意識に自分たちが立つこと（つまりその人の心情になりきること）はとても困難である。

【今後の改善策】

〇新学習指導要領から、社会科の目標や見方・考え方を意識した単元づくりを行う。

〇本気で対話や議論を生むように、生徒が必要性を感じ、ムキになれるような課題を設定する。

〇単元ごとに生徒の振り返りを確認しながら修正し、次年度に向けての単元構想や授業改善につなげていく。

〇自分事となる授業づくりは社会科としては多くなっていく。その際、問題を直視しないことで、現状の社会的価値が十分な吟味もされず、知らず知らずのうちに当事者のマイノリティを傷つけてしまう（「無知による罪」）可能性がある。その現実を生徒に気付かせることで問題について考える意義を捉えさせる。